

第2回市民委員会 第1分科会 討議概要

平成27年7月23日 午後6時30分～8時40分 場所：入札室

出席委員：13人出席／18人中

コーディネーター：伊藤 伸

事務局：企画課職員（藤平、國吉）

【テーマ】 コミュニティ～自分のくらす地域を好きになるには～

議題に入る前に、委員の自己紹介

今回の目標

富津市では地域・コミュニティに関することについて何をやっているのか把握し、それがどのような状況なのかを共有する。

市) 分科会テーマに係る市の取り組み例について概要説明

～概要説明後に委員から出た質問等～

委員) なぜ資料2の事業に絞ったのか。

市) コミュニティという枠組みで市民に直結している事業を市で判断して抽出した。

委員) 資料1の事業は、市の収入が中心となる事業はあるのか。

市) 概ね市のサービス事業。サービス提供に対する市民の負担中には使用料、手数料を含む事業もある。

委員) 富津市主催の祭りはあるのか。近隣の市はやっているが・・・

市) 商工会が主催の8月のふるさと祭り（青堀駅前通りの盆踊り）がある。

委員) 市の主催でなくても、他の団体が実施する大きなイベントがあればマスコミ等に市をPRする機会ができるのではないかと。

委員) 最大のイベントの花火大会を中止したのは富津市としてマイナスでは・・・

委員) コミュニティセンターの老朽化が進んでいるが、コミュニティ関係費の約542万円の内訳について

市) 指定管理費（委託費）、修繕費、保険料を合わせて約542万円となる。

～コーディネーター進行による討議～

コ) 皆さんは区、自治会に入っているか。

委員) ・入っている人が多数だが、入っていない人が2人

- ・区、自治会に入っていない人はアパートや寮に居住している。
- ・区に入るかどうか意思を確認されたことがない。

コ) 皆さんの帰属意識はどこにあるか？（富津市民、区民、学校、班、組・・・）

委員) ・小学校区で認識している、旧町単位、富津市民・・・。

- ・地域によって様々

コ) 市は自治会の数を把握しているのか。

市) すべての自治会を把握しているわけではない。

コ) 市の転入者に対する対応について

(委員から出た意見)

- ・自治体によっては転入者に自治会を指定するところもある。
- ・区長の連絡先を転入者に教えるところもある。
- ・転入届の提出の際に、区長の連絡先、ごみのスケジュール表を渡すべき。
- ・転入者はどうしてよいかわからない。市は把握すべき。
- ・自治会に入りたい人もいれば、入りたくない人もいるが、転入者には自分がどこの区に所属するかの情報提供はするべき。
- ・地域の祭り、イベントに参加したい、側溝清掃もしたい、地域の役に立ちたい、と感じている転入者もいる。
- ・回覧板がまわっていない人にも市は情報提供すべき。
- ・富津市は転入する人に区に入ることを積極的にすすめるべき。
若い人は、それを嫌がる傾向があるが・・・
- ・富津市民は新しく転入してきた人に対して冷たい。
- ・誰が住んでいるのかお互いにわからない。青木、大堀地区は特に。
- ・回覧板で新しい転入者を紹介するのはどうか。旧住民も転入者を把握できるし、転入者も溶け込みやすい。

コ) 今後の総合戦略を策定するにあたって、皆さんが幸せと感じる要素を取り入れなければならない。

委員)・都会からの転入者は、あえて静かな所を求めて転入している。人によって幸福のとらえ方が違うので、活気がないと思われている富津市も、良さと悪さがある。

・市民委員会の進め方として、市が方針を決めて、それに対して市民の意見を入れるほうがよいのでは。

コ) 今回の戦略策定は、白紙の状態から、市民と市が一緒につくるという意味で全国的にも珍しい取り組み。通常は市が大まかな計画、方針を示して、そこに市民の意見を取り入れる。市民の方は、今回上げた意見が取り入れられるかチェックすることも必要

委員)・市民が一体となって自分のこととして考えないと、この市は良くなるしない。

・市の財政的なことは、家計のやりくりと同じ。必要ないもの削減して、収入を増やす策を考えないといけない

コ) ごみステーションについて

(委員から出た意見)

- ・管理は区長、組長が行なっている。
- ・ごみステーションの更新には、組費を充てて購入したケースもある。
- ・新たな設置や設置場所決定については、区の判断に委ねられている。

～コーディネーターまとめ～

市民委員の大半の人が行政区、自治会等に入っていて、自分はどこ人間かという帰属意識は様々だが、大方、行政区や小学校区等のコミュニティに所属しているという意識を持っている。

その中で、現在、市は転入者へのフォローが希薄であると感じられる。個人が区や自治会に加入(所属)するのは個人の自由だが、市はその人を取り囲むコミュニティ(区、区長、自治会、ごみの収集等)の情報は提供するべきであり、市民が区や自治会に入っているのか、入っていないのか、ということも把握しておくべき。

転入者が溶け込みやすい環境、旧住民が受け入れやすい環境をつくるために、コミュニティに所属したくないと思う人(若者)もいる中で、市は何ができるかをもっと真剣に考えるべきである。

住んでよかった思えるためには、地域でのコミュニティがうまく機能すればそれが実現できるのでは。

地域活動が活発であることがネガティブに感じている人もいる。イメージの転換が必要ではないか。

～コーディネーター板書～

地域の単位

組 → 班 → (自治会) → 区 富津市

- ・地域によって異なる
- ・把握が完全にできてはいない
- ・区費と組費は別
- ・引っ越しに富津を選んでももらえない

区への加入率約 75%

転入者に区の情報が伝わっていない。→何かアプローチがあると大きく変わる

- ・市が情報を伝えるべき
- ・区長が連れて回る
- ・回覧板で転入者を紹介する

新住民は地域に溶け込みたい→地域によって異なる

旧住民は新住民と一緒に地域の活動をしたい。→現状はうまくいっていない。

ごみステーションの管理は組長→新しいごみステーションの設置は区長の判断

富津の良さ・・・自然。のんびり

現在の課題・・・小さいところから充実させるべき（排水、道路など）

～第3回市民委員会に向けて～

自分自身が地域でやっていること、参加している地域の行事等について各委員から内容を伺い、それについての意見を聞くところから始めたい。

各自準備をお願いしたい。

～座長のまとめ～

富津市での生活は2年だが、長年住んでいる方の意見を聞いて非常に勉強になり、また楽しい時間を過ごすことができた。次回もよろしくをお願いしたい。

◎コーディネーター及び市民委員からの質問事項（未回答）

【区長について】

- ・ 新任区長に対する研修はあるのか？また、その内容は？
- ・ 区長の報酬金額は？

【マリーンヒルについて】

- ・ 別荘としての住宅は何軒程度あるのか？
- ・ 別荘として所有している方は、ゴミステーションを利用できるのか。
分別されていなくマナーが悪いため、収集してもらえない。

第2回市民委員会 第2分科会 討議概要

平成27年7月23日 午後6時30分～8時33分 場所：502会議室

出席委員：11人/19人

コーディネーター：石井聡 ナビゲーター：永久寿夫

事務局：企画課職員（荒木、中山）

【テーマ】 住環境 ～くらしやすく、移住しやすい環境づくり～

（コーディネーターから本日のゴール確認）

本日のゴール 『市の現状を共有しよう！』

テーマが広いので、他の分科会に関することでも意見を出して欲しい。

《市の取り組み例の説明》

- ①住みよい環境対策（不法投棄対策・家庭ごみ・海や川の保全・花植えなど）
- ②交通（バスストップ・市道整備・バス路線の維持など）
- ③定住促進

《討議内容》

分科会に係る市の取り組み例の説明に対する意見・質問

■バスストップ事業関連

委) バスストップを設置することになったねらいは何か？

市) 現在、東京までの高速バスは、高速道路から一旦下りて一般国道を通行（湊～竹岡間）している。高速上からバスに乗車できるようになれば、時間等の短縮が図れること。また、本数の増加が見込まれることや観光面から考えても利便性の向上が考えられる。

ナ) 利用人数等シミュレーションはできているのか？

湊、竹岡のバス停からの乗り入れ状況はどのくらいか？

市) 定期購入者が3人（事務局修正：3月の発売以来定期購入者が延3人）程度いると聞いている。

そのほかは、随時利用されている方がいる状況である。

ナ) 利用者の年代は把握しているか。

市) 把握していない。

ナ) 年代の把握をしていないと、ざっくりとしたシミュレーションだ。正確にニーズを反映しているか疑問。

（委員意見）

*時間短縮等の話をされたが、現状の高速バスの良い面もある。

・公共交通機関（駅）から近く、歩いていける。

・バス停周辺に駐車場はないものの、停めて待てられる場所は確保できる。

*計画ありきで進めてしまうのはとても危険である。

*バスストップを作るなら戦略的に！！

費用対効果がなければただの無駄遣いになってしまうので、官民協働で連動していくよう進めてもらいたい。

委) 規模や乗り場までの設備はどうなっているか？また、バスストップ周辺(浅間山)は何もないが、商業・観光施設等への路線バスを設置する予定はあるのか？

市) 館山道4車線化に伴い、高速上にバス乗り場を設ける予定(例:羽鳥野バスストップのようなイメージ)。また、駐車場を100台設置するとともに、そこまでの市道を整備する計画。乗り場までは駐車場から階段・スロープを利用してもらう設計となっている。(現段階)。

市) 路線バスについては、ニーズ調査を実施の予定であり、今後事業者と協議を進めていく。

(委員意見)

- *現在の一般道にバス停がある方式の良いところを検討したか。車がなくてもそこまでいける。
- *現に高齢化が進んでいる。計画の段階からエレベーターの設置は考えて欲しい。
- *市民の大半はバスストップではなく、君津や袖ヶ浦のようなバスターミナルが出来ると思っている。ターミナルができた方が利用者はいると考えられる。
- *富津中央インター近くにターミナルを設置すれば、一般道を走る距離が短く渋滞も無いだろう。ターミナルならバスを降りてからの足も整備できる。
- *全て、「つくれば~かもしれない」で、通勤で朝晩1日2回しか乗らない、昼間の時間は誰も乗らない。つくることにはメリットはあるが、先の見通しが甘い。

コ) 高速バスを活用してこの地域をどうしたいのか、市南部をどういう街づくりをするか、皆さんで考えなければいけないと思う。皆さんのイメージはどうか。

(委員意見)

- *場所による。浅間山でなければ利用者は多いかもしれない。
- *駐車場は無料がよい。
- *羽鳥野は住宅地が接近しているから利用する。浅間山は観光地もない。
- ナ) 住民の取り合い。
 - *山が切り開かれ、インターができたことで別荘ができ、いつの間にか住民が増えていった。口コミで増えた。
- ナ) 何も無いのも都会から見たら魅力。
 - *住みたいと思ってもらうには、先ずは知ってもらう。
 - *お金をかけて住んでもらっても、消耗戦。
- ナ) アピールの仕方か。
 - *田舎暮らし体験を実施している市町村もある。空き家を使って富津市でもやってみたら。
 - ナ) 定住奨励金があったが、移住して来る人は奨励金無くても来る。
 - *子育て中の人もお金がもらえるからではなく、学校や病院などの環境がどうかで判断する。
 - *交通が整備されれば人は来る。バスターミナルは有効。
- ナ) 自分の車で富津まで来たので交通の便は良いと感じた。バスで来る人がどれぐらいいるのか。ここまでバスで来て、そこからの足をどう考えるのか。
 - *電車の利用者は、君津駅や木更津駅を利用する人が多い。電車の本数や快速列車

の利用、駅周辺のコインパーキングなど、利便性が高い。

*バスストップがあることをどうアピールするか。

ナ) 君津や木更津と競争してもどうかと思う。例えば、アマゾンやチベットの行きにくいから希少価値が高まっている。そういった発想はできないか。よそ者だから価値が見えた。

コ) 木更津、君津に伍して行く、または何も無いのが魅力という2つの意見があった。

(委員意見)

*日々の買い物に不自由している高齢者が多い。その点も考えなければならない。

*君津までは電車の本数も多く、便利。それは受け入れて、逆に富津は不便だが自然が多い。都会のことばかりを追いかけないことに活性化の可能性もあるかもしれない。今あるものを利用する。そういう街づくりをした方が良い。

*市街化されていないところが、富津の魅力。

*自然がある＝過疎化が進んでいる。

委) 人口を増やしたいのか。

市) 人口が減ることで町の活力が無くなる。減少に歯止めをかけたい。

(委員意見)

*全国の市町村で奪い合い。減ったなら減ったなりにうまくやるという考えもある。

ナ) 子どもが増えれば良いが、それがすぐにできないから奪い合いになる。

*増やすことが目的というより、住みやすいという方が分かりやすい。

ナ) ふれあい公園は素晴らしい施設なのに利用者が少なく、維持していくことが大変だと思う一方で、これを活用しないのは損だと思った。

*東京方面から同じ距離の神奈川県に比べたら、かなり住みやすい。

*住みやすいだけでなく、仕事がなくでは暮らしていけない。

*どこにいても駅周辺はシャッター街、郊外の道路沿いに店舗が集中する。

*観光も欲しい、定住も欲しい、全部は無理。

ナ) 出身の新潟県新発田は駅から2km近く商店街が続いていた。郊外に大型モールができ、今はシャッター街。駅前の商店主がそのモールで買い物する。シャッター街を何とかしなきゃというが、以前のビジネスモデルが成立しない環境になっただけの話。新しいビジネスモデルが成り立っている。

*大型モールまでの交通の便が悪い。

*今はコンビニが以前のスーパーの役割を果たしている。

*住民が地元で買い物をすれば、地元の商店街が再生する。商店主も高齢化して、立て直す体力が無い。

■ごみ事業関連

委) ごみ収集された缶や古紙等のリサイクル売捌きはどのくらい市の収入になっているのか？

*以前住んでいた君津市では自治会に運営費として還元されていた。

委) 不法投棄監視員を設けているとのことだが、不法投棄の現状は減っているのか?

※上記、2点について次回委員会にて回答とする。

～コーディネーター 石井氏の問い～
本日のテーマ「市の現状の共有」について

1. 本市人口（平成26年） *昭和60年以降人口減少

- ・自然減 △410人（自然減＝出生－死亡）
- ・社会減 △130人（社会減＝転入－転出）

◇なぜ生まれない？

…主な要因は、進学や就職等により特に若者が流出しているとの分析。

◇それでは、若い世代にターゲットを絞っていけばよいか？

コ) 進学をとめるのは難しい。亡くなるのを減らすのも非現実的。

(委員意見)

- ・多方面でみても難しいのではないかな。
- ・近年、田舎暮らしを求めて移り住む住民もいるので、この自然を活かしてあえて50代（転入）をターゲットとしてもよいのではないかな。（他にはあまり例がないケース）
- ナ) 退職して定住すると、所得が無く、年金もらいながら介護してもらおう。行政コストが高くなる。働いて、納税して、消費もして、そういう人が来てくれないと後の負担が増える。
バスストップも戦略的に、ということになる。働く人が利用しやすいところに造るなど。

2. 富津市の現状について

(委員意見)

- ・街ナカが閑散としている ・就労の場が限定される ・買い物難民が増えている
- ・富津は南房総（館山方面）の通過点となってしまっている
- ・地元商店街の活力がない（大型店の進出や高齢化等により店じまい）
- ・イオン木更津の開店により、富津の衣料品売り場が縮小。
…木更津店までのバスを設置してほしい。
- ・人口減少は先進国共通の現象。減少するのも住むには良いこと、生活を楽しむ価値観を定着させることも重要ではないかな。
- ・富津のイオンの駐車場にバスターミナルを設置すれば、みんなが得をする。

3. 富津市の魅力とは？また必要とされるものはなにか？

(委員意見)

- ・なにもないところ（市街化されていない）が魅力。
- ・都会を追いかけるのではなく、今あるものを共有したらどうか。

- ・人口減少しているなりにうまくやる（逆に魅力的、住みやすい）
- ・アピールが不足している

4. 意見の取り扱い

（委員意見）

- ・この会議で出た意見は反映するのか。やっただけではないのか。
- ・今までの市の計画に相反する意見でも市は取り入れる覚悟なのか。
- ・意見を取り入れられない場合、プロセスを後から検証できるようにして欲しい。

～コーディネーターまとめ～

「富津」を一言でいっても一様ではない。市内全体、海や山をまとめて捉えるのは難しいのではないかと考える。

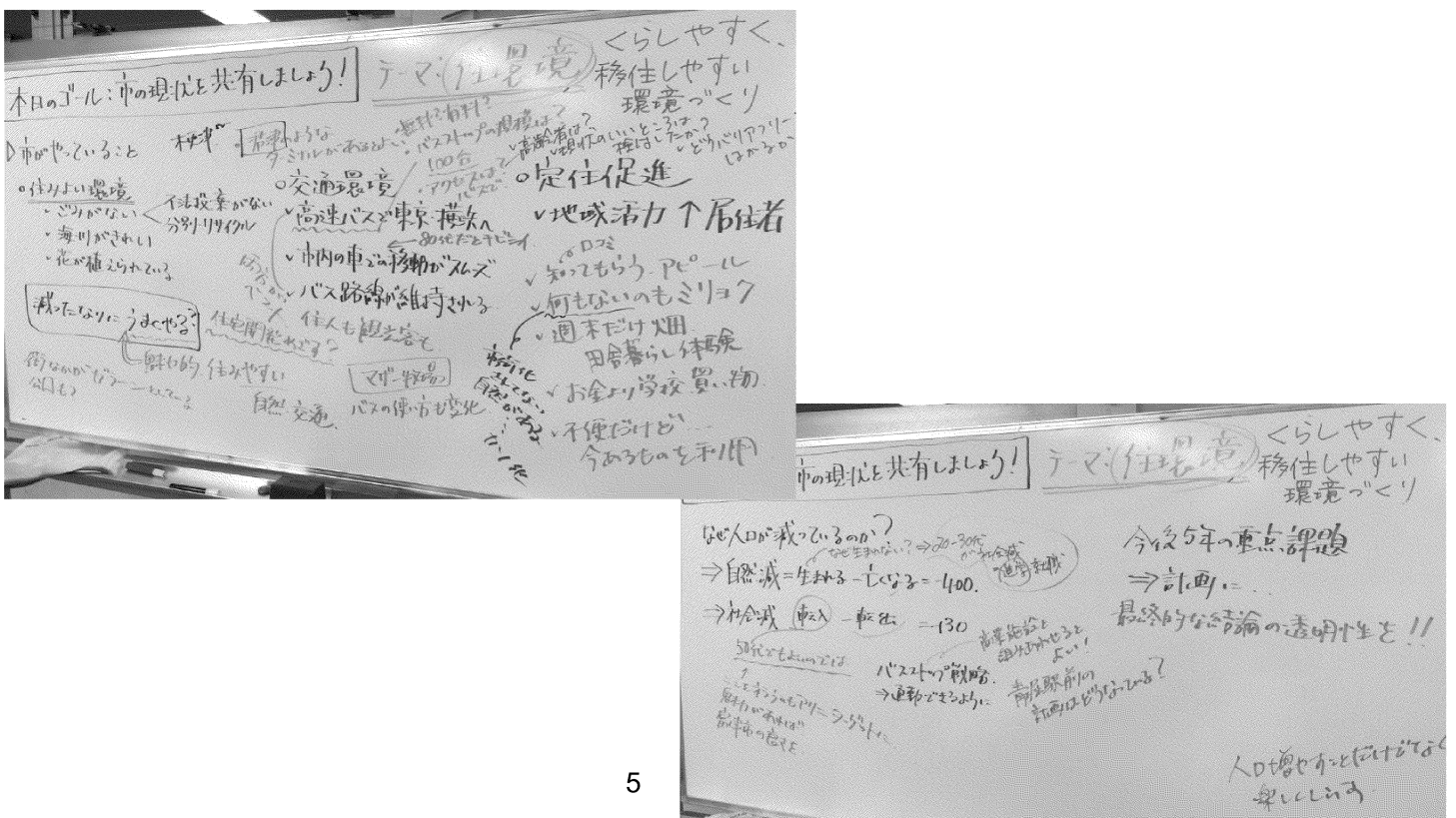
50代をターゲットにする地区はこの辺、こんなライフスタイルだったらこの街の魅力が引き出せるといったところを具体的に詰めていき、イメージとしてここにはこれが必要といった意見を論議したほうが、行政が計画に盛り込みやすい意見となるのではないかと思う。次回以降は深めていきたいので、是非アイデアを出していただきたい。

【次回への要望】

- * 質問に対し回答できる担当課職員の同席を求める。
- * 会議資料を事前に送付して欲しい。
- * バスストップ事業に関して提供できる範囲で計画等を出して欲しい。

【未回答質問事項】

- * ごみ収集された缶や古紙等のリサイクル売捌きはどのくらい市の収入になっているのか？
- * 不法投棄監視員を設けているとのことだが、現状では不法投棄は減っているのか？



第2回市民委員会 第3分科会 討議概要

平成27年7月23日 午後6時30分～午後8時40分 場所：503会議室

出席委員 11人（19人中）

コーディネーター 露木 幹也

ナビゲーター 福嶋 浩彦

事務局：企画課職員（赤井、飯田）

【テーマ】子ども・子育て～子どもの笑顔があふれるまちへ～

- ・第1回に欠席した委員が多かったことから、市民委員会の概要について説明
- ・コーディネーター、ナビゲーター、事務局の紹介
- ・資料の確認

市の事業に係る概要説明（子育て支援課分）

コ) 市の子ども子育て支援施策について、どのようなことを感じているのか、ほしい施策はあるか。

委) 富津市に待機児童がどれくらいいるのか。病児、障害児、休日保育の受入希望に対する受入可能数はどれくらいか。

市) 待機児童は0人である。

委) この事業を希望する人がいる場合は全員が受け入れられるのか、放課後児童クラブは7箇所ですべて全市域を網羅しているのか。

市) 富津に1つ、青木に3つ、飯野に1つ、大貫に1つ、佐貫に1つ、合計7つが設置されている。天羽地区には現在設置されていない。

コ) 天羽地区は、放課後児童クラブがないが、待機児童がないということは希望がないということか。

市) 市が把握している状況としては、待機児童は0である。

ナ) 放課後児童クラブの待機児童も0ということか。

委) 天羽地区への制度周知が十分にされていないため、希望できないことから把握していないのではないか。

ナ) 放課後児童クラブがない地域に待機児童がないということはあるかないか。

委) 病児保育に関する制度を知らないため、君津の実家に子どもを預けに行くという市民がいて、このため富津市に住まないと言っている。

ナ) 病児、障害児、休日保育の受入希望に対する受入可能数について答えをいただきたい。

市) 調査して次回回答する。

コ) 富津市の人口減は近隣市よりも多く、毎年約500人ずつ減少している。自然減が約300人、生まれる人より死亡する人が多い。また、社会減が約150人、転入する人より転出する人が多いのが富津市の現状である。

では、どのようなまちが子育てしやすいか。

委) 富津では子どもが少ない、自分の子どもに友達ができるのか不安である。

- ・市内の公園は、子どもに遊んでもらいたいという意図があって造っているように思えず、あのようなものであれば、無いほうがよい。

ナ) 遊びたいと思える公園がないということか。

委) 他の子どもがいない。人がたくさんいる方が安心できるし、子どもがかわいそう。

- ・君津の公園では、同年代の子どもがたくさんいるので、君津に連れて行っている。
- ・金谷で子育てをしたが、当時は、公園が無くても海や川、山でよく遊んでいたが、他の子どもや人がいないとできない。

コ) 富津市の1人当たり公園面積は、千葉県1位である。

委) 大堀や青木地区には公園はあるが、名称こそ公園だが、草が伸び、公園には見えないため、気づいていない人が多いのではないか。

コ) 1人当たり公園面積は、富津公園のような大きな公園も含まれている。市街地の小さな公園は、利用しづらい状況のようである。

委) 大堀や青木地区は区画整理の関係で公園はたくさんある。

- ・富津市には地域によって公園の設置に偏りがある。(大堀や青木は多い)
- ・青木には公園の予定地があるが、整備されていない。

ナ) 地域の人たちで設計して作業して作った公園は、そのあとすぐ利用する公園になる。

整備が行き届かない公園や予定地があるということであれば、それもできるのでは。

委) 子どもが集まる公園が無いから親同士の情報収集・交換ができず、市から送付される文書くらいでしか市のことも良くわからない。公園で早くから将来同級生となる親子と知り合うことが安心につながり、情報交換などによって輪が広がることは重要。

- ・市(庁舎)の誰も行かないレストランを開放して、子どもたちの集まれる場所にすればいい。市の職員しか利用しない、土日は休み。そんなレストランは無駄である。

コ) 公園は実際にはたくさんあるということによいか。

ナ) 子どもたちや親が集まれる場所を作ったらいい、と。

委) 富津公園に良く行くが、器具が壊れていて行く気が薄れて行く。修繕にはよほどお金がかかるのか。

コ) たしかに、安くはない。公園の草木の手入れ、遊具の点検・維持補修等に費用はかかる。

委) 小さい公園をつぶして、どこかに集中すればよいのでは。

- ・子ども園、遊ぶ場所や児童書が置いてあるような施設のような形にしてもいいと思う。
- ・公園にこだわらず、子どもたちが集まる場所の整備という形が良いのでは。遊び道具がなくても、子どもたちが集まれば違ってくる。

コ) ではどういう公園がよいか、市民の皆さん、子どもたちを持っている親が「こういう公園がほしい」という声を上げ、どうしたらよいかを考えるのが、戦略の目的だと思う。

そういうところから見えてくるものをまとめて良い施策を打ち出して行くことが必要。

ナ) 場所はあるそう。どんな公園にするかは子どもたちを含めて親が考えて造ったらよいものができそう。

コ) 富津市には児童館はあるか。

委) 富津市には児童館がない。君津市の児童館に連れて行く。また、図書館も君津、木更津を利用している。袖ヶ浦に行くとCDも借りることができる。

- ・富津市には図書館がない。
- ・移動図書館や富津公民館などの公民館に図書室があるが役に立たない。
- ・福島県矢祭町では、蔵書の寄附を募って町民がボランティアで集まり図書館をつくった。
- ・町民意識が高いからできたもので、市民が「役所がやることだ」とすべてをやらせようとしたら、今の富津市ではお金が無くて無理。

ナ) 鳥取県日野町には図書館がない。図書館を建設する費用がないため、空きスペース(商店のちょっとしたスペース、会社の1フロアなど)を提供してもらって町民がボランティアで運営し、町全体を図書館にする取組を地方創生で始めようとしている。

委) 市民の意識も変えなければいけない。

- ・移住した人がボランティアで子どもたちに勉強を教え学力を向上させた事例がある。
- ・地域活性のモデルになった市町村は、住民が自らいろいろな活性事業を実施している。
- ・市役所は、他の好事例を良く見なければいけない。

ナ) 『子どもが集まれる場所を、必要があれば予算を集中的に使い、かつ行政任せではなく、市民も知恵と力を出して作り上げる。』ということが一つの今日の成果として見えかけた。

コ) 子どもが集まるスペースを作ることで、コミュニティもでき、子育てにとってコミュニティは非常に重要になると思う。それは、公園かもしれないし、児童館かもしれない。できそうなのは公園なので、公園を市民のプロデュースで造る。そういう考え方があるのではないか、というのが今日の話で出た。具体的にこれから動けそうな感じはする。

委) 市役所の市民ロビーを子どもたちの交流する場所にできないか。

WG) 2階にキッズスペースがある。

委) 小さい。もっと広がったら子どもたちが集まれていると思う。

- ・よいものは市がPRしなくても口伝えで伝わる。
- ・たとえば「児童館を作りたいから、遊び道具を寄附してもらいたい」など声掛けをし、子育てが終わった世帯から遊び道具の寄附を募って子どもたちの集まる場所の充実を図ればよいのでは。

コ) 富津市には子育て世帯が望む住居がないのか。

委) 青木(区画整理された地区)はある。

ナ) なぜ青木にはあるのか。

コ) 富津のあたりも市街化区域はあるのでは。

コ) 基本的に市街化調整区域の農地は、宅地転用はできないのが原則で、例外的にできるのは、分家するが家を建てる土地がない、線引き前から家が建っているなどの特殊な条件がないといけない。

WG) 農地転用する必要があるなど難易度は高い。

委) 富津市には仕事がないため、交通の便もあり君津・木更津に通勤しやすい大堀や青木辺りが居住限界である。このため青木地区に集中し、その他の地域に建てないのでは。

・移住者が多いところは、新住民が多く、住みやすいのでそのような住居が多いのでは。
ナ) 子どもたちは、新旧住民など関係なく遊ぶのでは。子どもの遊ぶ場所ができれば、新旧住民融和の問題も解決できるのでは。

委) 富津市では海山の自然が豊かであるので子育てにも良い環境である。また、東京は通勤圏であるし、働こうと思えば働ける。

- ・富津市に移住したときは、人が多すぎない静かさがとてもよいと思った。
- ・子どもが集まれば、遊ぶものが無くても自分たちで考えて遊ぶ。

WG) 都会の人には富津市は魅力的に見える。

委) 魅力的に思っているのだろうが、実際には来ない。

- ・遊びには来る。
- ・かといって観光に力をいれるのはどうか。
- ・何も無いわけではないから、やりようではないか。
- ・日本全国、野菜や魚はある。売れるかどうかは市役所次第、人次第。

コ) 市役所もやらないといけませんが、市民もやらないといけない。

委) 市役所がもっと一生懸命にやらなければ、市民はやらない。

市の事業に係る概要説明（健康づくり課、学校教育課、教育センター、生涯学習課分）

委) 富津市における「いじめ」の状況は。認知件数は。いじめのSOSを受け止める場所、体制はあるのか。

- ・いじめに関する報告は学校からの報告が無ければ分からないので、市は把握していないのではないか。
- ・いじめがないということはないと思う。

コ) 小田原市の状況を説明する。富津市とそんなには違わないと思う。国でいじめ対策基本方針ができ、それに従い全国の各小中学校は、昨年3月までに、学校でのいじめ防止対策推進基本計画を作らなければならないこととなった。それから市と教育委員会として、いじめの方針をつくる、これは努力義務なので富津市が作っているかは不明。その方針の中に早期発見、早期対応、重大事態への対処を具体的に定めているところが多い。早期発見が一番重要と考え、小田原では、チェックシートを作って、教師が常にチェックしているとか、校内で児童を対象としたアンケートを実施、少ないところで年2回、多いところで年4回実施し、いじめの実態を把握しているのが現状。

ナ) 国、文部科学省がやれといったから、県がやれといったからやるのではなく、富津市は是非、富津の子どもから出発してもらいたい。

コ) 地方創生は、そういったところからスタートしている。

ナ) 国のことは一旦忘れて、富津市に必要なことから出発して、戦略を策定する。一度補助金のことを考えず、富津市にとって本当に必要なことを考える必要がある。できた後で、補助金の交付を受けられるものは受けるという考えでないと良いものはできない。

委) 経済的には問題がないのに、家庭で満足に食事を受けられていない子どもについて、市は把握しているのか。

- ・給食費の未払いが問題となっているが、他の自治体では払わない家庭の子どもには給食を出さないところがあるが、子どものいじめにつながる恐れがあるので、全員に給食を提供できるよう全額公費にするべき。
- ・30年ぶり小学生を持ったが富津市では、子どもに給食費を持たせる集金方式であることに驚いた。また昨年、弁当持参か給食かを選択する文書が届いた。

委) 給食費の未払いを防ぐため。

- ・給食の個人負担と税金の内訳は。

コ) 食材費は給食費で個人負担。人件費・施設費等は公費

委) 家庭で満足に食事を受けられない子どもが救済されるような市にしてもらいたい。

ナ) 給食調理、施設は税金、食材費は子どもの親が負担。これが良い形なのかを議論してもよいと思う。

委) なぜ給食が必要なのか。私の時代は、給食がなかった。

コ) 摂取する栄養のほか、食育が重要とされていて、子どもが大人になって行く中で、食べ物を選択していける力が必要ということが、給食で大きなウェイトを占めている。

委) 保護者は給食の意義は知らない。弁当を用意するのが手間。皆と同じものを食べさせたいという意識くらいしかないのでは。

- ・給食が何箇所か廃止されるという話を聞いたが。

市) 廃止ではなく単独校方式を共同調理場方式に変更した。生徒数が減少し続けており、コストを抑えるために変更。

ナ) 質を維持するためには、単独校が圧倒的に優位。単独校でコストを下げる方法はいくらかでもある。

委) 以前から給食センターからの配食だったのでは。

コ) 学校による。富津市では、4つあった共同調理場を2つにしたのですよね。

委) 私の学校では、自分のところで作っていたので、作るところを見に行っていた。

ナ) 食育というのはそういうもの。作る人と接することができる。

委) 富津市は、画期的な、子育てといえれば富津市といわれるようなまちになるよう、予算を大きく使ってもいいのではないか。

コ) 画期的な部分を考えないといけない。

ナ) 必要な部分に集中的に予算を使うというのはわかるが、全体的には支出をどうやって抑えるのかを考えなければ、今のまちづくりはできない。たとえば、コストダウンということであれば、「地域の人が、料理が好きなので給食をつくれます」という声が上がったときに参加できる仕組みなどが考えられる。また、あれだけの調理施設で1日に給食を1食しか作らないというのは非効率。稼働率を上げる方法、例えば地域の高齢者の配食などのために利用することはどうか。

委) 退職して、趣味で野菜を作っている高齢者は多い。農作業に従事することで健康になり、野菜を提供してもらおうことで、給食コストも抑えられる。

ナ) 全員に同じものを食べさせる考えを捨てる必要がある。

コ) 給食に地産地消を進めようという動きがある。しかし、給食の調理現場では「献立のとおり納品が確約されないところには、注文できない。」との意見があるが、本当にそうなのか深掘りする必要がある。

委) 国の方針かもしれないがなぜ横並びなのか。人口規模も地域によって異なるはずだが。

委) 子どもが安心して育つまちがよい。そうすれば親が来る。

WG) 地理的にはよい。アクアラインによるアクセスのよさ、豊かな自然、待機児童もない。子どもが少ないことならでは教育もできる。

委) PRが大事だと思う。

- ・富津市の学力は分かるのか。

コ) 学力調査を国でやっているのだからわかると思う。

委) 塾に行く子どもと行かない子どもと学力の差が生じている。市は、塾に行かなくても学力を向上させるよう、協力を求めて学校で指導を行うなどしたほうがよい。

コ) その点は、いろいろと模索しているところがある。学校の先生では難しいので、学校の場所を借りて地域が入って、地域の人たちが子どもたち集めて勉強を教え、地域のコミュニティを作りながら子どもたちの教育も進める、というところが出てきている。

委) 若い男女が指導に来れば婚活にもつながるのではないか。

- ・鴨川市は平成26年度の小学校4年生の学力テストの平均が千葉県上位で高かった。その要因があるはず。

- ・鴨川市は、亀田病院に通勤する医者の子どもの多いから。ほかの子どもたちの底上げになっている。

- ・親としては、遊ぶのも大切だが、勉強も大事。

- ・富津市よりも過疎であるが秋田県も学力全国1位。

- ・体をつかって遊ぶ子どもの方が、学力の身につけ方が違うと思う。

コ) 今、塾と学校が連携して授業をやっているところもできている。

委) 木更津では、高速バスが充実（1分おきに1本）しており、東京や横浜の塾に通う子どももいる。

- ・対岸で家を買えない人が、木更津に家建て、親は通勤、子どもは学習のためバスで通う。

ナ) 小学生がバスで塾に通うのが本当に幸せなのかは疑問。

委) 中学校受験で都内の学校に入っているのだから、バス通学になる。

- ・富津市にも大きな会社があるが、社員は富津に住まない。理由は、学校がない、教育環境が良くない。社員が来たがらないので新しい会社も来ない。という話を聞く。市はこのような現状を把握しているのか。

- ・企業を呼び込む要因がないわけではない。

WG) 場所としては恵まれている。

委) ちょっと直せば来るのではないか。道のことを考えてターミナルを作れば、高速バスがもっとこっちから出たと思う。

- ・木更津、君津までのアクセスを良くすればよかったのでは。バスを呼ぶ必要があったのか。

- ・浅間山バスストップを作っても、バスの運賃は高く本数も少ない。だったら金田のバスストップを利用する。

WG) 観光の拠点として富津中央インターは大事。

- ・市民の利用のことを考えていない。富津市役所をバスストップにすればよかった。
- コ) 富津市は交通の便が悪いことで居住者が増えないと考えている人が多いようである。しかし、JRを増便しようとしても実現は困難。であれば、君津駅の近くに富津市民専用の駐車場を作ったほうが道路を新しく作るよりよほど安い。
- ナ) 日本全体の人口が減るので、人を呼んで増やすという考え方は無理がある。減っても住民が幸せになる方法を考える必要。住んでいる人や子どもが幸せになるまちは、結果として人を呼ぶことになる。これをやったら人が増える、人が呼べるという考えは実を結ばないように思う。

委) 富津公園の活用の方法はないのか。

WG) マラソン、駅伝の選手などが活用している。

委) 泊まる場所がなければ、合宿にこない。

- ・温水プールなど良い設備があるが、お金が無いのは分かるが上手く活用していない。
- ・良いところがあるのに、芽を摘んでしまっている。

コ) たしかに、スポーツ施設はかなり充実しているように思う。せっかくいいものがあるのに活用されていないということかもしれない。新しいものを造らなくても人を呼ぶことができるかもしれない。

委) オリンピックにからめて何か企画してもよいと思う。立地はよいが富津市が通過点になってしまっていることは問題。

コ) 子育てに対する考え方はある程度出たのではないかと思う。次回以降、実際にどうなったら子育てしやすいのかそういう視点から話し合いながら、具体的にどういう戦略を打てばよいのかというところにつなげていければと思う。

委) 今日疑問に思ったところは回答してもらえるのか。

コ) 次回は担当が出席する。

委) 地域で子どもを育てる点について、市民委員会に参加している人は、富津市を良くしようという同じ方向を向いていけるが、市民委員会を知らない人に会議で決まったことをどのように公表していくのか。

市) コンセプトはオープンガバメントであり、情報は随時公開。現在、会議の状況は富津市のホームページ上で公開している。

委) 公開したところで、その人たちの考えは変わらない。その点についてはどうか。

市) 市民、行政が互いに、どのように富津市の発展、また子育てに係わっていったら、富津市、それから住んでいる住民自身にとっていちばん良いのかを分かるように、見える形にすることで、参加したいと思う市民が増えるのではないかと考える。

コ) 私も行政にいるので分かるが、その点が一番難しいが、失敗する事例は、行政が旗を振ったとき。行政が旗を振ったときは多分うまくいかない。市民委員会で意見が出ているが、意見だけではいけない。自分たちの意見の結果を監視しなければいけないし、場合によっては、市民が自ら動かなければいけないという状況を理解して、市民が動き始めれば輪も広がる。

ナ) オープンガバメントの夢を大きく広げれば、このような会議をインターネットや双方

向テレビでコメントが入ってくるように、市民の意見をリアルタイムで画面上に表示するなどもできるのではないか。ほんとに大きく夢を広げればそういったこともできるのではないか。そうすると参加意識を高めることができるのでは。

●分科会運営について

委) 今回の話し合いは子ども子育てという枠にとらわれずに、移住者とか住みやすさとか全部一緒になっての話し合いが良いと考えていた。子育てだけで考えても人がどうやって集まってくるのか、このテーマで話してもどうかと思う。

・第1回でもこういう分け方かどうかという話しをした。子育てをテーマに討議といっても、子育てを充実させるには他の3つのテーマについても討議が必要になると思う。

4つの班に分けても、全てリンクしているから意味ないのでは？

ナ) 「こういう分け方かどうか」という意見が出たのに、市がこういう分け方をした理由はなにか。

委) この会議は市が戦略をつくるにあたって市民の意見を聞く場を設けたという、単なるアリバイ作りではないか。

WG) 子育てを考える上で、住環境や仕事についても必要となってくるので、子育ての枠にとらわれず、考えていただいても問題ない。

ナ) テーマは子ども・子育てとなっているが、それを取り払って自由に話すということではどうか。

コ) 総合戦略は、本来そういうもので、「子育て」といっても公園の整備が必要とか、移住策を進めるべきだとか、医療や施設が充実していないから充実させるべきだとか、いろんなところに絡んでいく。どんどん風呂敷を広げて良いということではどうか。

市) 他の分科会の進行状況を確認しているが、コミュニティ・住環境・産業と雇用が相互に関連していることは、説明をしている。このため、議論がテーマから外れているということは、ほとんどないようである。この分科会では、子ども・子育てを基調として議論を進め、結果として他のテーマに係る内容となったとしても、議論の結果そうなったということであれば問題ない。

ナ) 他の分科会と話しをする機会はあるのか。

市) 議論の進行に応じて必要があれば行うこともある。

委) この会議自体が続いて行くのであれば、今後の進行でテーマを変えてもよいのか。

市) 人数の関係もあり、例えば40人で1つのテーマを話し合ってもまとまらない恐れがあることから、1グループを約20人とし、テーマを4つとしたものである。

委) ネガティブな意見、市役所の苦情が多くなっているが、第1回の説明を受ける前は皆さんと同じ考えだったが、説明を受け、市民が行政のやっていることのうち自分たちができることをやっ払いこう、そこで、財政を浮かせよう。自分たちが動こう、自分たちが、何かできることを、地域の人たちと協力して作って、子どもたちを育てやすい環境を作っていく。どうしても工務店との話しが上手くいかないときに市役所の人に手伝ってもらおう。そういうスタンスだと思っていた。そうしていけば、市民一人ひとりの気持ちが前に、ポジティブに行くのではないか。今までの話は、ただ後ろを見ているだけで前に進まない。さっきから聞いていると、「市役所がやれば」という話しを聞くので、

自分たちが進んでやって、役所の人に手伝ってもらおうという感じだと思った。

- ・市役所にやってもらいたいことをあげればきりが無いが、すべて実施させることは不可能であるから、自分たちは何ができるのかを話し合うものだと考えている。
 - ・話しの進め方、持って行き方だと思う。そこは、プロの方にお任せする部分ではないか。
- コ) その点は、次回以降、整理シートを作る。そこで、次回以降整理シートを用いて、市のやるべきこと、市民のやるべきことを整理していく。
- 例えば、今の話であれば、スペースがあるから、その一つを市民に任せて公園作りをして、市民が集まり考えて市民の手で作るソフト事業も考えられる。そういったこと考えて行くのが、総合戦略策定に向けた市民力である。今は、「こういったところがよくない」というのはスタートであって、会議が目指すゴールは、「では、どうしたらよいか」、「誰がやるのか」を考えて行く。それをすべて行政がやるというのは、現状としてできない。ではどうするかを考えるのが戦略である。
- ナ) 行政ができないことがあることはおかしい。市民ができないから行政が税金を使って実施するものである。行政ができないから市民がやるという発想はおかしい。市民ができることは市民でやるということは普段、強調して話しているが、そういうふうに市民の意識を変えて行くには、「市民以上に必死に行政がやっている」という思いが伝わらないと、姿が見えないといけない。

●行政について

- 委) 大堀にバスターミナルを作るための用地を確保したが、バスが入るための進入路が確保できていないなど。用地取得前に分かるのではないか。自分の家を建てる時ならそんなことはしない。
- ナ) 税金を無駄遣いしたら責任の所在を明確にしなければならないと思う。
- 「お金がないから役所がやらずに、市民にやってもらう」では、市民に受け入れられない。職員の給料を下げればよいという話になる。そうではなく「市がやるより、楽しいし、良いものになる。だから市民がやる」という発想が大事だと思う。
- 委) 花火大会も、市が実施を取りやめたが、市民の有志で実施できた。市民だけでもできることはあるということ。
- ・市の議員が多い。木更津と同じ人口割にすれば、現在の半分の数になる。
- ナ) 逆に、議員を100人にしてボランティアにするという方法も考えられる。一般の人と同じく日中は仕事をして、夜は議会。

【委員の質問、要望事項】

- ・病児、障害児、休日保育の受入希望に対する受入可能数は
- ・放課後児童クラブの待機児童も0ということでよいか。
- ・富津市には児童館はあるか。
- ・市役所の職員は、富津市に住んでいるのか。
- ・富津市の職員が、結婚すると君津市に家を建てるのは本当か。
- ・なぜ、富津市には子育て世帯が望む住居が青木地区以外にないのか。
- ・富津市における「いじめ」の状況は。認知件数は。いじめのSOSを受け止める場所、

体制はあるのか。

- 経済的には問題ないが、家庭で満足に食事を受けられていない子どもについて、市は把握しているのか。
- 富津市の学力は。
- 市長が10分ずつでも各分科会を回り、討議に参加すればよい。

第2回市民委員会 第4分科会 討議概要

平成27年7月23日 午後6時30分～午後8時30分 場所：504会議室

出席委員：15人（全20人）

コーディネーター：石渡秀朗 ナビゲーター：土屋龍一郎（欠席）

事務局：企画課職員（牧野、高橋）

【テーマ】 産業・雇用 ～市の産業・仕事を創る～

市) 分科会テーマに係る市の取り組み例について概要説明

～討議内容～

コ) 富津市における産業・雇用についてどんな課題を感じるか。または、すばらしい点を伸ばしていくという視点を踏まえて発言をお願いしたい。

コ) 漁業についてはどうか。

委) 親が漁師だが、昔に比べ海で獲るものがあまりないという話を聞くので、獲るだけではなく、養殖など育てるという考えを持った方がいいのかなと感じる。

コ) 主に何を獲っているのか。

委) 昔はアサリ、最近はあまり獲れないため今は主に白ミル貝。

コ) そういった漁師は少なくなっているのか。

委) 多くの漁師が高齢であり、後継ぎもいない状況。

コ) 富津の海苔はブランドとして有名だが。

委) 江戸前で有名だが、有明と比べると印象が薄い。

コ) 有明では海苔網を年間2回ローテーション（2期作）しているのに対し、富津では年間6回やると漁協で聞いた。それは新しい芽のほうが美味しいから芽を冷蔵庫で保管しながらローテーションしていくということで努力されていると感じたが。

委) 仕事は体力的にきついし、価格交渉の際も仲買業者が主導権を持っているのが現状。息子がいるが、あまり継がせたくないと思っている。

コ) 海苔は9月に種付けをして7月位まで収穫するとのことだが、それ以外の時期は何をしているのか。

委) 潜水業（アサリ・白ミル貝）をしている。

コ) 昔は浜値で消費者が買う値段が決まっていたが、今は逆に消費者が先に値段を決めてその後に浜値が決まってくるので、漁師が浜値で決めることができない。

委) 値段を決められないことより、仲買がいることが問題であり、例えば道の駅で直接売っている野菜などのように海苔を売ればブランドとして名前も売り易い。

コ) 海苔は中間搾取が問題だと。

委) 海苔の直売については、個人ではやっているところもあるようだが、それは微々たる量で、何千、何億枚もの海苔の出荷があり、捌ききれないため、仲買に頼んで買ってもらっているのが現状。

委) 法律をはじめ、海苔の直売を妨げるものはあるのか。

コ) 法律的にはないと思う。日本の農業協同組合、漁業協同組合は農林中央金庫に資金を預け巨大な金融をやっている。そこで末端の組合に色々な制約をしている社会的な問題があるが、一方で倒産のリスクが個人事業に比べ少ないということもある。

委) 海苔は作ったままでは食べられず、一度焙らなければいけない。また、包装も業者にださないと売り物にはならない。

委) 仲買業者には海苔に海老や貝殻が入るのを防ぐため3~400万する機械を導入するよう言われるが、工場にあるような機械を借金して購入し、返すのがやっとの状況だと聞いている。

思い切って会社にして6次産業化したらどうかと考えることもある。6次産業化すれば、漁師になりたいと思う若者も増え、そうすると若者が地域に帰ってきて、色々お金が動いていいのではないか。

コ) 雇用についてはどうか。

委) 企業の移転とともに富津に来て気になることは、企業誘致をしているがそれが雇用につながっているのか疑問。息子も富津で育ったが残念ながら東京に出て行ってしまった。新富地区に企業はある程度貼り付き、大きな企業もあるなかで、市全体で盛り上げて富津人の雇用に繋がればと思う。

コ) 企業進出した時に、市内の雇用よりも昼間流入人口（市外から富津に入る人）のほうが多いのか。

委) 私もその一人なので、多いと思う。その家族がまた富津の企業に勤めればいいが、隣の君津や木更津、工場地帯が多い市原地区に勤めてしまい、富津に留まらない流れになっているのが残念。

委) 以前、富津にある会社に勤めていたが、その会社が拡張する際、工場を富津ではなく木更津に建てた。浅間山も候補になっていたらしい。

コ) 交通アクセスは木更津の方がよかったのか。

委) 富津の方が良いと思う。

コ) 土地が安かった可能性もある。

委) 浅間山は今メガソーラーをやっているみたいだが、人は誰もいない。

コ) メガソーラーはある意味土地の有効活用になるが、雇用は生まれない。企業が外に出ていってしまうことは分析する必要がある。

委) 富津に工場を立てなかった理由として、精密機器を作っているため、あえて考えられることは塩害によるサビの気もする。

コ) 学生の委員は地元で働きたいか。

委) 富津以外を知らないなので、富津を出て働いてみたい。

コ) 富津以外で働いている方、富津がやっぱり良いか。

委) 住むのは富津が良いが、富津は希望する雇用が少ないことと交通の便が悪く、車がないと通勤できない。

コ) 例えば雇用機会があればここで住んで、ここで働きたいか。

委) それが理想だが、自分のやりたい事と雇用がマッチするかが問題。

コ) 市内には、東電、新日鐵のほか荏原など大きな企業があるが、そこでの富津市民にとっての雇用機会はないのか。

委) 私の知る限り、荏原は羽田から移ってきたが、現在も多くの方がバスで通勤している。

委) 新日鐵には雇用がある。荏原はもともと羽田で働いていた人が富津で働いているが、これからは地元の人を必ず採用してもらうように市が企業と約束事をとらなければいけないと思う。

私は昭和 43 年に北九州から移住してきたが、その当時富津は海苔業が盛んだった。現在私の周りで海苔をやっている人は3分の1程度まで減り、その減った理由を聞くと、1つに海苔は冬の朝に行く仕事のため、高齢化した漁師には労働条件が厳しい。もう1つは、海苔の不純物を取り除くため、新しい機械を使って選別した方が海苔は高く売れるが、その設備投資に対する支払いに追われて逆に生活が苦しくなるために辞めてしまうケースが多い。また、労働条件が厳しいため、若い人はなかなかやりたがらない。

しかし、市内では海苔に色々な付加価値を付け、観光業者とタイアップして個人販売しているところもあり、そこでは近所の奥さん達が10名ほど働いているので雇用の創出にもなっている。

コ) 企業誘致で地元雇用を促進させる条件を付ける話があったが、よくあるのが税金を何年か免除する、地元雇用率を上げるといふようなことがあるが、そういった課題もある。

委) 企業誘致について、木更津のアカデミアパークでもうまくいかなかったと聞いているが、富津も新富地区では長い間企業が貼りつかない期間があり、企業の誘致というのはこちら(市)で条件をだすとなかなかうまくいかないのか、なかなか来てもらえないようなマイナーな状況が富津にはあるのかなと思う。

コ) どういうマイナーな面があるのか、今後掘り下げていく必要があるかもしれない。

委) 館山道が開通したが、東京・神奈川方面からくる観光客は富津に寄らずに通過して南に行ってしまう。道の駅は富津にはないが、南には点在しており、多くの観光バスが立ち寄っている。道の駅などの観光施設が富津市にあれば、そこに立ち寄るために館山道を降りてきてくれることが考えられる。富津市で有名な観光施設はマザー牧場だけであり、富津市は知らなくてもマザー牧場は知っている。

委) 不動産業を通じてお客さんと話していると、後継者がいないため、農地が耕作放棄地となり売るにも売れない状況。

富津市の固定資産税は他の地域に比べ安く、荏原関連の子会社は荏原の近くに建てたいと思っているが、(土地の)単価が高いのがネックとなり、進出を躊躇していると考ええる。

また、市街化調整区域が弊害となり企業が進出しにくいので、せめてメインであ

る市役所通りの部分だけでも規制を緩和できれば、そこに中小企業が進出し、雇用も生まれるのではないか。市街化調整区域のために進出を断念したお客さんも数件いる。

コ) 農業についてはどうか。

委) 実家が農家だが、高齢のため年々規模を縮小している。同じような状況の農家もたくさんあり、耕作放棄地が増え続けるなか、東京では学生をはじめ農業をやりたいという方が多くいる。そういった方や大学などの機関と提携して土地を有効に利用できればもっと若い人も入ってくるのでは。

コ) 後継者不足の問題もあるのか。

委) それもあるが、若者が農業をやりたいと思うかどうかには問題があり、若い人で農業をやりたいと思っている人に、富津に来て農業をやってもらうのがいい。

コ) 法律の規制もあるのでは。

委) 農地は法律で許可なく貸せない。

委) 農業でも会社を作って、勤め人として若い人が勤められればいい。

コ) 畜産についてはどうか。

委) 土産屋で売っている菓子などには富津の卵、牛乳を使用していると書かれたものもある。

また、木更津のアウトレットにあるマザー牧場の牛乳やソフトクリームを売っている店は、人気がある。

コ) 観光についてはどうか。

委) 金谷では昔は民宿が多くあり賑わっていたが、現在ではみんな辞めてしまい、連休にフェリー乗り場周辺と鋸山が混雑するくらいで、全体的にみれば衰退している。

コ) 地元の雇用はあるか。

委) あまりない印象。また、地元で働く人は高齢者が多く、若い世代の人が地元で働いているのをあまり見かけない。

コ) 富津の観光施設ではマザー牧場が年間 90 万人、金谷が年間 60 万人と聞いたが。

委) 金谷に来たお客は、フェリー乗り場周辺の土産施設を利用するが、そこでなんでも揃ってしまうので、地元の商店には来ない。しかし、合掌造の古民家カフェなど、規模は小さいが特徴のある店には値段もそれなりにするが徐々に常連客も増えており、賑わっている。

コ) フェリーはゴルフ客も多く利用しており、金谷では工夫次第でそういった方を集客できるかもしれない。

委) 金谷では祭りが毎年開催され、他の地域でも昔からずっと続けているところが多い。山車やお囃子の生演奏はその地域ごとに違うので、一同に集めて大会みたいな

ものを催すのもおもしろい。

委) 観光で思うことは、外の人にどうやって情報を発信しているか。例えば大きなマリンスポーツの道具を積んだ人を土日によく見るが、マリンスポーツを始めてみたいという人はどうしたらよいのか。富津市内で体験ができるのか、道具は買えるのかななどの情報があるといいのでは。

また、目的地の近くに飲食店なりお土産屋があればそこにも人が集まり経済効果が生まれるのではないか。

コ) 情報発信については、行政がやらなければいけないわけではなく、総合戦略策定のなかでも市民の役割が重要になってきている。例えば漁協との調整などは行政がやる必要があると思うが、こういった情報発信については民間ベースでやった方がうまくいく。

委) 集客でいうと、潮干狩りは多い時で日に2万人訪れる。ゴールデンウィークで潮がよければ5日で10万人、1人100円でも使ってくればすごい経済効果になる。

コ) 近くにお金を使う場所がないのか。

委) 少ないと思う。公園や海も近くにあるが、それだけでは無料なので、なにか工夫してシャワー効果を狙ってもいい。

また、東京湾観音も鋸山も登らないで見ただけなら無料で、無料が多くて良いところだと思うがそれだけでは観光業はやっていけない。

委) 観光のモデルコースがあればいいなと思う。

コ) その他何かあるか。

長野県から移住された方、富津の魅力は。

委) 冬は特に長野に比べ温暖で良いところ。

コ) 富津に移住した経緯は。

委) 企業の富津移転とともに東京から移住してきた。現在はアパートで暮らしている。

コ) 企業誘致とともに転入してきた人を定住させる政策（婚活等）も有効かもしれない。

委) 海を好きな方が別荘を購入する件数や問い合わせは増えてきている。別荘以外だと、定年退職した人や若い人だと自宅で仕事ができるIT関係の方が定住目的で土地を購入している。

委) 私は会社を経営しており、君津と木更津に2店舗あるが、富津市には企業を出店する場所がない。例えば市役所通りでは既にある程度整備がされているため出店するエリアがなく、農業振興地域のため、農地転用の許可もなかなかおかない状況では、いくら場所がよくても出店の余地がなく、他市にいつてしまう。

また、人々が得られる情報量が多く、産業の多様化がはじまっている現在で、企業を誘致するにも富津市自体が経済特区のようなことを市単位でやっていかなければ企業の出店、雇用の創出は生まれない。

コ) どういう法規制が企業進出の妨げとなっているか。

委) 農地転用などがある。また、企業側からするとそこに出店して雇用が生まれるかどうかも考えており、事前に調査をしている。

コ) 先ほど雇用機会がないから問題だという話があったが、雇用機会を創出したとしても本当に雇用が確保できるかどうかという問題が企業にはあるということか。

委) はい。木更津のアウトレットなどは人気があり、大きな企業体であっても毎日求人広告がでている。業種が限られていた昔とは違い、今の若い人達は給与が第一ではなく、自分のやりがいとやりたい事が仕事とマッチしているかで仕事を探している。

コ) アクアラインの影響については。

委) 800円値下げ後、観光客が来やすくなった。

コ) アクアラインを使って通勤している人は。

委) 富津はわからないが、君津、木更津では多い。

委) 高速バスの通勤を認める企業が増えてきたこと、それからバスでも時間が見えるようになり、渋滞で始業時間に間に合わないということが減っているためバス利用者は増えていると思う。

コ) ベットタウンの可能性がまったくないわけではない。

委) 木更津の羽鳥野や請西は開発し、区画整理した当時はまったく売れなかったが、大型スーパーができたことにより住居として環境がよくなり人気となった。

東京の人で富津に貸し家を持っており、そこで一泊して翌朝早くに館山や外房に行くという人も結構いる。

そういう意味ではその土地の価値をどれだけ見出せるかが重要となってくる。

企業進出や集客を見込める産業であれば、条件により国から直接融資や支援が受けられる制度があるのでそれを活用すればもっと人も呼べたり、ブランドを立ち上げたりできると思う。

コ) そういう情報発信というのは企業誘致の枠組みのなかで可能性があり、市で情報発信するための情報を各省庁から集める窓口を1つ設けたほうがよいかもしれない。

委) 企業としては休耕田を利用できればと思うが、法律の規制があるから何も使えない。そこを市が整備してくれたらいいなと思う。

コ) 最後に座長からまとめをお願いしたい。

座長) いろいろな分野に携わっている人の話を聞くことはめったにないことで、それぞれの実情がわかった。行政側の対応を含めてこうすればよくなるのではないかとといった意見もあり、解決策に向けた方向性も見えてくるのではないかと感じ、とても有意義なものとなった。

【質問事項】

- ・観光のモデルコースがあればいいと思う。
- ・地場産業の後継者不足の対策は？
- ・休耕田の利活用方策は？